

南種子町

教育委員会名：南種子町教育委員会

住 所：鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793 番地 1

電 話：0997-26-1111

I モデル地域の現状と取組

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状

○モデル地域名：南種子町

○学 校 数：小学校 8校 中学校 1校

(2) モデル地域の安全上の課題

本町は、種子島本島の南部に位置しており、沿岸部沿いでは、津波災害を被る可能性が高い。更に、主要道路も海岸沿いにあり、津波被害を受けた場合は交通や物流の経路は遮断され、避難行動や緊急車両の出入り等も大きく影響すると思われる。

また、山沿いの地域は、土砂災害警戒区域に入っており、大雨や地震等の自然災害が発生した際には、甚大な被害が想定される。

しかし、離島及び地域の特性上、災害時の避難場所や経路の確保が難しいこと、台風接近への防災意識は強いが、地震や津波、土砂災害に対する防災意識はやや低いことが課題として挙げられる。更に、子どもに対する防災の取組や、災害が起きた場合の児童生徒の動き、学校の対応、地域や保護者との連携を図る取組や体制が十分整っていない。

そのため、本地区の教職員・児童生徒・保護者の防災意識を平常時においても保つとともに、災害が起きた際の対応策や連絡等の体制づくり等を具体的に推進していきたい。

2 モデル地域の事業目標

- (1) 全ての学校に中核となる教員を位置付け、学校安全（防災）の取組を推進する。
- (2) 児童生徒自らが考え実践する防災モデル授業の開発や、効果的・実践的な避難方法の構築、危機管理マニュアルを見直し、町内の学校に公開する。
- (3) 保護者・地域ぐるみで取り組む防災活動と避難体制を構築する。

3 取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 防災教育の充実に関する取組

令和5年11月14日に拠点校の島間小学校で鹿児島県教育庁保健体育課学校体育安全係から講師を招聘し、「危険を予測し、主体的に命を守る行動をする子どもを育てる防災教育の在り方」をテーマとした研究公開及び公開授業、授業研究を行った。

公開授業では、教科等横断的なカリキュラム編成によって防災教育を取り入れた5・6年(複式)総合的な学習の時間の授業が行われた。緊急時における防災バッグの中身について、主体的・対話的な学びの様子が見られた。また、南種子町役場の防災担当者を講師に招聘し、考えた防災バッグの中身へ価値付けや家庭への取り組みを促す指導により、実生活へつながる内容ともなった。授業研究は、ワークショップ形式で行われ、指導内容やカリキュラム編成の在り方等への活発な議論が行われた。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

2月に学校と教職員の意識を向上させることを目的としたアンケートを実施し、結果を学校へ報告した。各学校の状況、教職員の意識を町全体と比較することができ、各学校の防災に関する取組に反映させた。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

- ・ 管理職、教育委員会、校区内の自治会組織関係者等による実践委員会を開催しながら協働して取り組む体制を整えた。
- ・ 安全点検を職員だけでなく、児童による安全点検と保護者による安全点検を設定して実施し、新たな危険個所の発見や児童の安全意識を高めることができた。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

ア 各校の安全指導を担う教職員（中核職員）の役割を明確にし、教職員全体で学校安全に取り組む組織づくりを進めた。

イ 令和5年度「学校安全指導者研修会」へ島間小の中核教員、教育委員会事務局職員を出席させた。研修で得た成果について南種子町学校安全総合支援事業実践委員会で発表させ、防災に関する意識を高めた。



ウ 中核教員を鹿児島県健康教育研究大会に出席させ、県内で行われている安全教育への優れた取組について学ばせ、研修で得た成果について各学校の中核教員を対象とした研修会で発表した。

エ 気象台による防災ワークショップを町内の小・中学校で実施し、津波や各種災害への知識や安全に対する意識を高めた。また、教職員の危機管理意識の向上や避難訓練の実施方法の見直しへの機会ともなった。来年度も小学校1校でワークショップを予定しており、それにより、町内全ての小・中学校で気象台のワークショップを実施することとなる。

(4) その他の主な取組について

拠点校の作成した安全マップと気象台によるワークショップの内容等を参照し、町内全ての小・中学校で安全マップの見直しを行い、児童生徒に配布するとともに、各校区内公民館に掲示することで、防災に対する関心と意識を高めた。



4 取組の成果と課題

【成果】

- ・ 拠点校が公開授業において、教科等横断的なカリキュラム編成による防災教育の在り方を発表してくれたことにより、拠点校の児童や保護者、地域の防災に関する意識を高めるだけでなく、モデル地域内の学校での防災教育に関する教育課程編成により示唆を与えることができた。
- ・ 気象台の方々による津波を想定した防災ワークショップを行ったことで、児童は、津波災害に関する知識を得ることができた。来年度も含め、町内全校で実施することができるので、避難訓練等に活用していきたい。

【課題】

- ・ 拠点校では、避難訓練の内容の見直しや毎月実施（1単位時間ではないものも含む）等、実践的な避難訓練への取組が行われているので、モデル地域内の全ての学校で実施できるための手立てを行う必要がある。
- ・ PTA等での保護者への啓発活動を行うことはできたが、公民館と協力した防災訓練等、地域への啓発活動や共同実施を増やしていく必要がある。